

福祉総合学部における英語教育の強化に関する予備的研究 —英語教育の現状分析と保育英語導入の検討—

佐野 智子 ・ 大内 善広 ・ 井上 敏昭 ・ 所 貞之
品田 知美 ・ 広瀬 美和 ・ 市口 陽子 ・ 岩田 泉

【要旨】

本研究は、福祉グローバル人材を目的とした福祉系の大学における英語教育に関する基礎的研究である。研究Ⅰでは、学部1年生全員107名を対象とし、英語に関する英語学習開始時期、英語に関する意識調査、英語学習動機、英語効力感、英語結果期待について、質問紙によって回答を得た。60%以上の学生が小学校より英語学習を開始していた。英語に関する意識では、「英語を話せるようになりたい」「これからは福祉の仕事でも英語が必要になる」と考えていた。英語効力感と英語結果期待、内発的動機づけには正の相関があり、これらの要因と苦手意識および無動機には負の相関があった。英語効力感や結果期待、内発的動機づけに働きかけるような英語教育が望ましいことが示された。研究Ⅱでは保育英語のワークショップを実施し、それが英語効力感を得られるものであることを確認した。段階的に実践的な英語運用能力を向上させることができる保育英語検定を補助的に導入することにより、より効果的な英語学習の可能性が示唆された。

キーワード：福祉グローバル人材、英語教育、内発的動機づけ、英語効力感

1. はじめに

社会の急速なグローバル化に伴い、新卒の社会人に対しても、英語を活用して仕事を遂行する能力が求められている。採用条件や昇格条件として英語運用能力が挙げられていたり、社内の公用語が英語であったりすることも生じている。このような潮流は、ビジネス分野だけでなく、以下のように、今後は福祉の分野にも波及してくることが予想される。

まず第一に、日本国内の地域社会においても多文化化、多言語化が進行しており、福祉従事者が支援を必要とする人々にアクセスし、ニーズを把握するにあたって、共通語としての英語の運用能力の必要性が増大することが予想される。なかでも、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、選手やスタッフ、観客など様々な立場で、多く障がいをもった人たちが世界中から集結する。そのことを考えると、外国語ができ、なおかつ福祉

の専門的な知識・技術を習得した人材が必要となる。オリンピック開催まで5年を切っている現在、英語ができる福祉人材の育成は急務である。既に小学校では、2011年度より新学習指導要領が実施された際に、小学5、6年生において年間35単位時間の「外国語活動」が必修化された。さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、2014年度からは新たな英語教育実現のための体制整備が開始されている。これらの初等中等教育を受けてきた学生の英語能力をさらに伸ばし、地域の福祉に貢献できる人材を育成することが、福祉系の大学学部には求められている。

また、保育の現場でも英語能力が必要となってきた。外国人が日本で働く機会も増加し、英語を母語とする子どもたちを預かることが増えている。さらに英語教育の早期化により、幼稚園や保育所で英語を教えるところも増えており、そこでも英語のできる保育者の需要が高まっている。

次に、海外における福祉分野での援助においても、英語運用能力は欠かせない。世界に目を向けると、途上国では福祉が十分に整っておらず、5歳未満死亡率の高い国々が多い。JICAが行った「すこやか親子インドネシアプロジェクト」では、母子手帳の導入を行うことで、母子保健が質的・量的に向上した。このように日本の福祉の実践方法を途上国の福祉向上に役立たせるような支援の現場にも対応しうる人材を育成することも、福祉系の大学学部には求められている。

本学福祉総合学部は、ディプロマ・ポリシーのひとつに、「ローカル、グローバルな視野に立ち、国境や文化の境を越えて対応できる能力を有し、孤立や排除のない社会づくりに貢献できる」ということを早くから挙げてきたが、上記のような社会的ニーズを鑑みると、福祉分野での活躍を目指す学生にとっても、英語の運用能力は、ますます重要になってきているといえる。換言すれば、本学部の学生たちにとって、在学中の4年間でいかに語学力をつけるかということは、大きな目標のひとつであるといえるのである。

小島（2013）は、中学校での英語学習に対する自己効力に最も影響するのは、小学校の外国語活動で能動的に学び、自分の学びを把握する「学びへの自己関与」としている。現在大学に在籍している学生は、小学校での英語必修化が実施される前の学生である。現在在籍中の学生たちに適合するような英語教育を実施するために、現状の把握が必要である。

本研究は、福祉総合学部において「保育英語」を導入することで、福祉分野のグローバル人材育成のための英語教育強化を試みるものである。いくつかの保育者養成校では、「保育英語検定」の導入を行っているところがある（鈴木、2012）。保育英語検定とは、2011年に開始された保育現場で使用される英語検定試験であり、非常に簡単な初歩的単語やフレーズを理解できる「入門レベル」から、園の運営が支障なくできる程度の「専門レベル」までの6段階に分かれている。また、初級レベルでは内容も日常的なコミュニケーションが中心であり、実践的に楽しく学習できる。これらの特徴が、子ども福祉コースだけでなく、他コースも含めて本学部の多様な学生に適用しうると考えられる。福祉分野における英語検定試験で

ある「医療福祉英語検定」も存在するが、こちらは3級と4級のみで、段階が少なく、より上級への目標設定が困難である。そこで本研究では、本学部において5級から1級までの6段階のレベルのある保育英語検定を導入した場合の効果の可能性を検証する。予測される効果は以下の通りである。

- ① 学生たちがそれぞれのレベルにあった英語学習ができる
- ② 段階的な学習により自己効力感が得られる
- ③ 検定試験があるので、学習目標が明確になり、学習意欲が湧き、自発的な学習が可能となる
- ④ 実践的な英語を身につけることができる
- ⑤ 将来、保育を目指す学生たちが、グローバルに活躍できるようになる
- ⑥ 福祉を学び、将来 NGO、NPO で働くことを希望している学生たちへの要求に応える
- ⑦ 募集活動にも貢献する
- ⑧ 学生が自信をつけ、海外研修への参加意欲が増す
- ⑨ 退学予防につながる

本研究では、福祉総合学部1年生へのアンケート調査を実施し、英語学習に関する現状分析を行う。また、保育英語のワークショップも本学部1年生全コース全員に実施し、保育英語導入による効果の可能性を検証する。

2. 研究Ⅰ「英語学習に関する現状把握」

2.1 目的

研究Ⅰでは、福祉総合学部1年生を対象とし、これまでの英語学習歴、英語学習に関する意識調査を行い、現状把握をすることを目的とする。

2.2 方法

質問紙（資料1を参照） 質問紙は対象者に関する項目、英語に関する意識、英語学習動機づけ、英語効力感尺度、英語結果期待尺度から構成されている。詳細は以下の通りである。

対象者について 基本属性（性別、年齢、コース）、渡航経験の有無、外国の友人の有無、英語学習開始時期、英語学習開始時についてネイティブ教師の有無・授業の印象・理解度。

英語に関する意識 英語に対する感情と将来英語を使うキャリア希望について7項目、自己の英語力に関する評価4項目、英語の授業に関する意識3項目。

英語学習動機尺度 田中・前田（2004）を参考に作成した。この尺度は英語に対する学習動機の状態について、無動機、外発的動機づけ（外的調整、取り入れ調整、同一視調整）、内発的動機づけ（知識、達成、刺激）の7因子を想定し、各3項目で測定するものである。

なお、無動機に関しては3項目全て逆転項目となっている。

英語効力感尺度 松沼（2005）を参考に作成した。この尺度は英語に関する課題に対する遂行可能性の認知について、8項目で測定するものである。

英語結果期待尺度 小島（2013）を参考に作成した。この尺度は英語が使用できる場合にポジティブな結果が得られると認知しているかという結果期待について、7項目で測定するものである。

英語に関する意識、英語学習動機尺度、英語効力感尺度、英語結果期待尺度については、5件法である。

手続き 2014年10月～12月までの期間に、1年次の基礎ゼミにおいて、社会福祉コース、介護福祉コース、子ども福祉コースで質問紙を配布し、回収した。調査当日出席をしていた107名（平均年齢18.9歳，SD=1.1）を調査対象とした。

2.3 結果

基本属性、渡航経験の有無、外国の友人の有無、英語学習開始時期、英語学習開始時についてネイティブ教師の有無・授業の印象・理解度については、項目ごとに度数および割合を算出した。また、英語への効力感、結果期待、動機づけ、苦手意識の有無について、基本統計量を算出した上で、SPSSにより相関係数の算出および t 検定を行った。

① 調査対象者について

コースごとに人数を算出したものが表1である。介護コースで男性が若干多くなっているが、ソーシャルワークおよび子ども福祉コースでは女性の割合が多い。

表1 コース別対象者数

	<i>n</i> =107			
	男性	女性	無回答	合計
SW	17 47.2%	19 52.8%	0 0.0%	36 100.0%
介護	14 53.8%	12 46.2%	0 0.0%	26 100.0%
子ども	18 40.0%	25 55.6%	2 4.4%	45 100.0%
全体	49 45.8%	56 52.3%	2 1.9%	107 100.0%

② 渡航経験の有無について

渡航経験の有無に関しては、50名（46.7%）の学生が有りと回答している（表2）。渡航

回数は、渡航経験者の 62%が 1 回のみであったが、複数回の渡航経験を有しているものは 30%以上存在した（表 3）。また、外国の友人がいると回答しているものは、30%以上であった（表 2）。

表 2 海外渡航経験と外国の友人の有無

項目	全体(N=107)			SW(n=36)			介護(n=26)			子ども(n=45)		
海外渡航経験	有り 50 46.7%	無し 55 51.4%	無回答 2 1.9%	有り 15 41.7%	無し 20 55.6%	無回答 1 2.8%	有り 16 61.5%	無し 10 38.5%	無回答 0 0.0%	有り 19 42.2%	無し 25 55.6%	無回答 1 2.2%
外国の友人	いる 36 33.6%	いない 65 60.7%	無回答 6 5.6%	いる 10 27.8%	いない 26 72.2%	無回答 0 0.0%	いる 10 38.5%	いない 13 50.0%	無回答 3 11.5%	いる 16 35.6%	いない 26 57.8%	無回答 3 6.7%

表 3 渡航回数

n=50		
渡航回数	人数	%
1回	31	62.0%
2回	5	10.0%
3回	3	6.0%
4回	1	2.0%
5回以上	7	14.0%
無回答	3	6.0%
合計	50	100.0%

③ 英語学習開始時期について

小学校から英語の学習を始めたという学生が全体の 60%以上を占めていた。中学校からは 34%であった。2011 年の小学校における英語教育の必修化より前の段階であっても、すでに小学校から英語教育を受けていた学生が 6 割を超えている（図 1）。

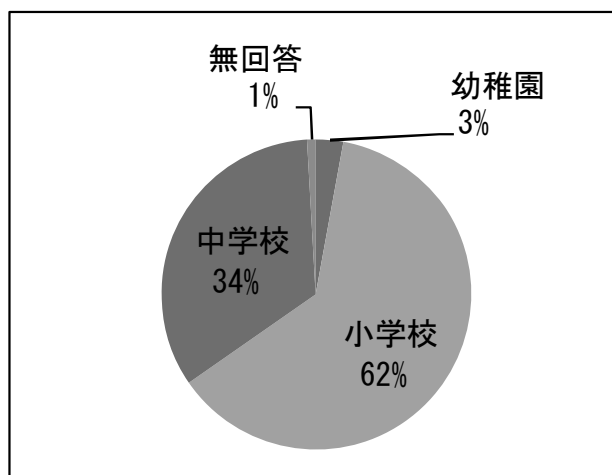


図 1 英語学習開始時期

④ 小学校での英語教育について

小学校でから英語を学び始めたと回答した 67 名に対し、小学校の英語教育において、「ネイティブの先生がいたか」という問いには、54 名（81%）が「はい」と回答しており、ほとんどの小学校でネイティブによる英語教育が行われていたことがわかる（図 2）。

また、「小学校での英語授業は楽しかったか」という問いに対しては、約 84% の学生が楽しかったと回答している。「いいえ」と回答したものは約 15% であった。小学校の時点では、英語学習が楽しいと感じていたものが大多数を占めている（図 3）。

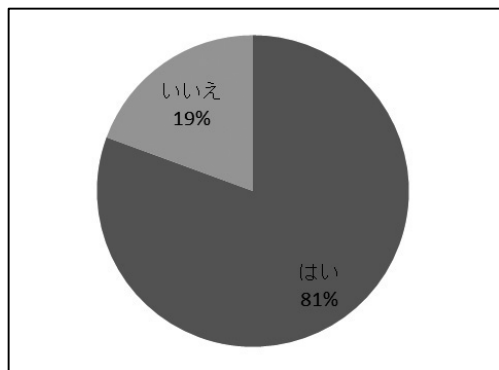


図 2 小学校英語教育におけるネイティブ教師の存在

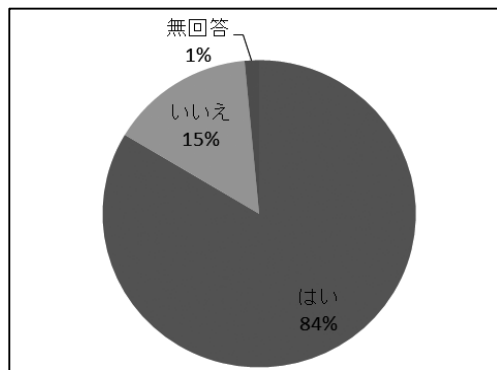


図 3 小学校の英語の授業は楽しかった

⑤ 中学校の英語教育について

中学校の英語教育において、107 名中 65 名（約 61%）でネイティブ教員がいたことがわかる（図 4）。

中学校での英語教育は楽しかったかという問いに対しては、「はい」と「いいえ」は、ともに 50 名（46.7%）が回答し、拮抗している（図 5）。

さらに「中学校での英語授業はよく理解できたか」という問いに対しては、「はい」と回答したのは、33 名（30.8%）であった。（図 6）

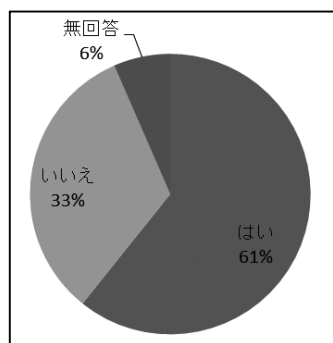


図 4 中学校英語教育におけるネイティブ教師の存在

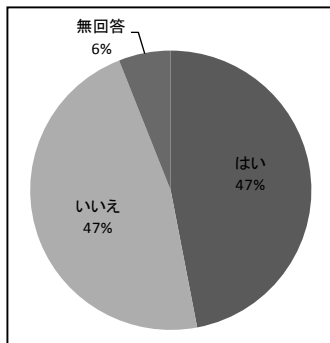


図 5 中学校の英語教育は楽しかった

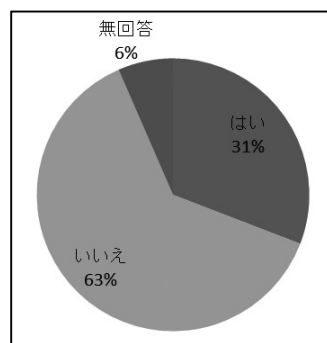


図 6 中学校の授業はよく理解できた

⑥ 英語学習に対する意識調査

「英語に対し苦手意識はあるか」という問いには、全体では 8 割近くの学生は「はい」と回答しており、約 2 割のみが「いいえ」と回答していた（表 4）。コース別にみると、ソーシャルワークコース、介護福祉コースでは、苦手と回答していたのは、7 割弱であったが、子ども福祉コースでは、苦手意識をもっている学生が、93.3%と非常に高い数字を示している。

表 4 「英語に苦手意識はあるか」に対するコースごとの回答

(N=107)			
	はい	いいえ	無回答
SWコース	25 69.4%	10 27.8%	1 2.8%
介護コース	17 65.4%	9 34.6%	0 0.0%
子どもコース	42 93.3%	3 6.7%	0 0.0%
合計	84 78.5%	22 20.6%	1 0.9%

その他の 5 件法による質問項目の平均値と標準偏差を示したものが表 5 である。ここで特徴的な点を述べる。まず全体の平均でみると、英語のリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングのそれぞれは 2 点台と、あまり得意ではないと考えている（質問項目 9～12）。「将来は海外で働きたい」（質問項目 7、平均値 1.92）、「英語を使った職業に就きたい」（質問項目 6、平均値 2.04）に関しては平均値が 2 点前後と低めになっており、英語を使った職業の選択には消極的である。しかし、英語を話せるようになりたいと強く思っており（質問項目 2、平均値 4.11）、これからは福祉の仕事でも英語が必要になると考えている（質問項目 8、平均値 3.69）。つまり、自分の英語力の現状に関してはあまり自信がないが、将来は英語も必要と認識しており、英語を話せるようになりたいと強く考えている。

表 5 英語に対する意識に関するコースごとの平均値

質問項目	全体(N=107)		SW(n=36)		介護(n=26)		子ども(n=45)	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
1. 英語が好きである	2.80	(1.37)	3.25	(1.44)	2.73	(1.46)	2.49	(1.18)
2. 英語を話せるようになりたい	4.11	(1.04)	4.53	(0.70)	3.96	(0.98)	3.87	(1.20)
3. もっと英語の授業があればいいのと思う	2.95	(1.33)	3.47	(1.32)	3.04	(1.31)	2.49	(1.20)
4. 海外研修に参加したい	2.86	(1.38)	3.25	(1.54)	2.65	(1.23)	2.67	(1.30)
5. 海外留学をしたい	2.72	(1.41)	3.22	(1.57)	2.40	(1.22)	2.49	(1.27)
6. 将来は英語を使った職業に就きたい	2.04	(1.07)	2.39	(1.29)	2.19	(0.98)	1.67	(0.80)
7. 将来は海外で働きたい	1.92	(1.11)	2.11	(1.33)	2.04	(0.93)	1.71	(0.99)
8. これから福祉の仕事でも英語が必要になると思う	3.69	(0.98)	3.92	(1.00)	3.38	(0.98)	3.69	(0.95)
9. リスニングが得意である	2.30	(1.11)	2.31	(1.19)	2.19	(1.20)	2.36	(1.00)
10. スピーキングが得意である	2.30	(1.13)	2.53	(1.21)	2.38	(1.33)	2.07	(0.89)
11. ライティングが得意である	2.36	(1.16)	2.47	(1.21)	2.27	(1.25)	2.31	(1.08)
12. リーディングが得意である	2.36	(1.19)	2.72	(1.28)	2.31	(1.29)	2.11	(1.01)
13. 大学の英語の授業は楽しい	2.94	(1.31)	3.14	(1.44)	2.96	(1.31)	2.78	(1.20)
14. 大学の英語の授業は難しい	3.00	(1.17)	2.75	(1.23)	3.19	(1.13)	3.09	(1.14)

コース別では、ソーシャルワークコースが英語学習に関して、「英語が好きである」、「英語を話せるようになりたい」、「もっと英語の授業があればいいのと思う」、「海外研修に参加したい」、「海外留学をしたい」の得点が、他コースよりも高く、英語に対する学習意欲が最も高いと考えられる。子ども福祉コースでは、「将来は英語を使った職業に就きたい」「将来は海外で働きたい」の平均値が最も低く、それぞれ 1.67、1.71 である。しかし、「これからは福祉の仕事でも英語が必要になると思う」や「英語を話せるようになりたい」の得点は高く、英語学習の必要性は感じている。

⑦ 英語効力感、英語結果期待、英語学習動機について

英語効力感と英語結果期待については平均値を、英語学習動機については下位尺度ごとの平均値を、コースごとに算出した（表 6）。英語効力感は全体で 2.28 と低い。一方、英語結果期待については、若干高くなっている。特にソーシャルワークコースで最も高くなっている。

表 6 英語効力感、英語結果期待、英語学習動機の各尺度の平均値

尺度	全体(N=107)		SW(n=36)		介護(n=26)		子ども(n=45)	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
英語効力感	2.28	(0.89)	2.54	(0.97)	2.20	(0.92)	2.12	(0.77)
英語結果期待	3.62	(0.89)	3.90	(0.78)	3.43	(1.04)	3.49	(0.83)
英語学習動機：無動機	3.02	(0.88)	2.68	(0.90)	3.22	(0.93)	3.17	(0.77)
英語学習動機：外発的動機づけ・外的調整	3.72	(0.81)	3.71	(0.93)	3.33	(0.79)	3.94	(0.62)
英語学習動機：外発的動機づけ・取り入れ調整	3.35	(0.93)	3.42	(0.92)	3.12	(1.01)	3.44	(0.88)
英語学習動機：外発的動機づけ・同一視調整	3.95	(0.90)	4.11	(0.91)	3.73	(0.95)	3.94	(0.85)
英語学習動機：内発的動機づけ・知識	3.36	(0.94)	3.80	(0.81)	3.08	(1.08)	3.19	(0.85)
英語学習動機：内発的動機づけ・達成	3.23	(1.08)	3.83	(0.92)	2.84	(1.19)	2.98	(0.93)
英語学習動機：内発的動機づけ・刺激	2.67	(1.17)	3.07	(1.09)	2.65	(1.34)	2.36	(1.04)

英語学習動機については、外発的動機づけの同一視調整が最も高くなっており、続いて外的調整になっている。特にソーシャルワークコースの同一視調整が 4.11 と最も高い。子ども福祉コースも外的調整および同一視調整は高くなっている。ソーシャルワークコースに関しては、内発的動機づけの知識や達成の得点も高い。英語を学ぶことでさまざまな知識が増えることが楽しく、勉強するとできるようになるという達成感や満足感を得たいと思っている。このような内発的動機づけが高いと、学習は継続されやすい。

また、英語効力感と英語結果期待、英語学習動機間の相関係数を算出した（表 7）。英語効力感は無動機と強い負の相関が見られ、内発的動機づけとは高い正の相関が見られた。また、英語結果期待も、無動機と強い負の相関が見られるが、外発的動機づけのなかの同一視調整や内発的動機づけの達成および刺激と高い正の相関が見られた。同一視調整は内発的動機づけの知識、達成、刺激のそれぞれと強い正の相関がある。

表 7 英語効力感と英語結果期待、英語学習動機間の相関係数

	英語効力感	英語結果期待	無動機	外的調整	取り入れ調整	同一視調整	知識	達成	刺激
英語効力感	1.000								
英語結果期待	0.377	1.000							
無動機	-0.674	-0.558	1.000						
外的調整	0.015	0.275	-0.117	1.000					
取り入れ調整	0.202	0.484	-0.135	0.342	1.000				
同一視調整	0.389	0.637	-0.525	0.385	0.606	1.000			
知識	0.511	0.589	-0.606	0.191	0.350	0.578	1.000		
達成	0.542	0.625	-0.675	0.218	0.451	0.662	0.760	1.000	
刺激	0.566	0.490	-0.503	0.167	0.416	0.525	0.704	0.740	1.000

注: 太字は5%水準で有意な相関

次に、英語の苦手意識の有無別に英語効力感と英語結果期待、英語学習動機の平均値を算出した。そして苦手意識の有無を独立変数、各尺度を従属変数として t 検定を行ったところ、英語効力感、無動機、内発的動機づけの達成は 0.1%水準で、内発的動機づけの知識は 1%水準で、英語効果期待および内発的動機づけの刺激は 5%水準で有意差があった (表 8)。英語に苦手意識を持たない学生は、苦手意識を持つ学生と比較して、英語効力感や英語結果期待、内発的動機づけが高く、無動機が低い傾向が見られた。

表 8 英語に対する苦手意識の有無と英語効力感、英語結果期待、英語学習動機

尺度	苦手意識有り(n=84)		苦手意識無し(n=22)		t値
	Mean	SD	Mean	SD	
英語効力感	2.01	(0.72)	3.26	(0.79)	-7.092 ***
英語結果期待	3.51	(0.90)	4.05	(0.76)	-2.586 *
英語学習動機: 無動機	3.21	(0.84)	2.29	(0.68)	4.780 ***
英語学習動機: 外発的動機づけ・外的調整	3.71	(0.74)	3.74	(1.04)	-0.162
英語学習動機: 外発的動機づけ・取り入れ調整	3.34	(0.94)	3.35	(0.91)	-0.032
英語学習動機: 外発的動機づけ・同一視調整	3.86	(0.91)	4.24	(0.81)	-1.805
英語学習動機: 内発的動機づけ・知識	3.24	(0.94)	3.85	(0.83)	-2.758 **
英語学習動機: 内発的動機づけ・達成	3.04	(1.08)	3.94	(0.78)	-3.654 ***
英語学習動機: 内発的動機づけ・刺激	2.54	(1.19)	3.15	(0.97)	-2.224 *

* $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$

2.4 考察

今回の調査結果から、約 6 割の学生たちは小学校から英語学習を開始していた。この数値はベネッセ教育研究開発センター (2009) の調査の数値よりも約 30 ポイント低い割合となっている。英語教育の変化の速さが伺える。学生たちは、小学校での英語教育は楽しかったと認識していたが、中学校で英語教育が始まると、楽しいという印象は減少していた。これはベネッセのデータ (2009) と一致する。ベネッセのデータを解説した吉田 (2009) によれば、小学校で英語が好きだった生徒のうちほぼ 6 割が中学校で英語嫌いになっており、78.6%が文法でつまづいている。中学時代に英語がよく理解できていない場合は、英語に対する苦手意識が形成され、無動機が高く、英語効力感、英語結果期待、知識・達成・刺激の内発的動

機づけが低くなると考えられる。

しかし、本学部の3割強の学生たちは、英語に対する苦手意識はなく、英語効力感や英語結果期待、内発的動機づけが高い。このような学生たちは海外への強い興味や関心をもっている。グローバル人材の定義には、英語力やコミュニケーション力の他に、「異文化に対する理解と自文化のアイデンティティ」（経済産業省，2011）が含まれているが、今後、このような学生たちを増やしていくことが課題である。相関分析の結果から、英語効力感、英語結果期待、内発的動機づけにはそれぞれ正の相関があり、これらと苦手意識、無動機とは負の相関があることも確認できた。英語効力感や英語結果期待および内発的動機づけを促進させるような教育をすることで、苦手意識や無動機を克服できると考えられる（図7）。

すなわち、福祉グローバル人材の育成のためには、英語の映画や歌詞、文学などを理解したり、英語圏の人々やその生活様式を知りたいという内発的動機づけ（知識）や、英語を勉強し続けていると、今まで聞き取れなかった単語や言葉がわかるようになるのが嬉しいといった内発的動機づけ（達成）、英語を聞くとわくわくしたり、英語で会話をしていると楽しいといった内発的動機づけ（知識）に働きかけるような教育が必要である。

また、「自分にもできる」、「頑張れば何とかなる」という「英語効力感」を促進する必要がある。

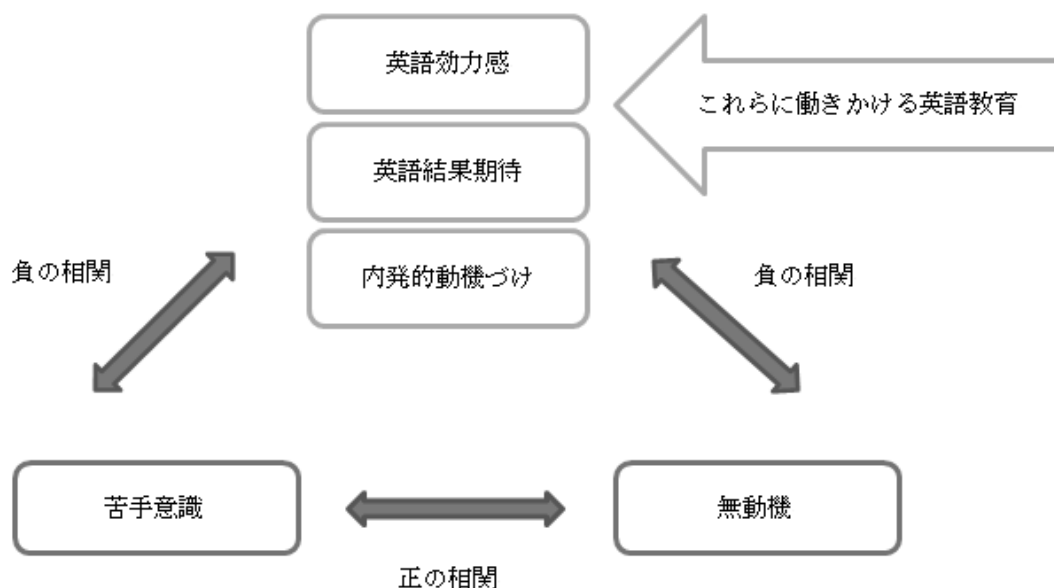


図7 英語教育関連要因の相関関係

3. 研究Ⅱ 「保育英語ワークショップ」の実施と検討

英語効力感を得られ、段階的に英語習得ができるという観点から、「保育英語」は本学部の学生たちに適していると思われる。そこで、試みに保育英語のワークショップを行い、学生たちの感想を聞き、保育英語導入の可能性について検討を行う。

3.1 目的

「保育英語」導入を検討するため、保育英語のワークショップを行い、その感想を聞き、英語効力感がどの程度変化するかを確認することが目的である。

3.2 方法

対象は研究Ⅰと同じ福祉総合学部の1年次生107名であった。実施の時期は、2014年10月～12月の期間の基礎ゼミを利用し実施した。英語のワークショップなので、すべての学生に対し一度に実施することは不可能であるため、コースごとに1コマ分ずつ実施した。

ワークショップでは、学部に所属する英語教員1名が保育英語の授業を約60分実施した。本授業の担当教員は英語を母語とし、TESOLを専門としている。授業内で教員が使用する言語は英語を主体とし、どうしても必要な場合のみ日本語の単語でヒントを挿入した。保育英語の内容は、①グループワークで単語クイズ、②サバイバルゲーム、③身体を使っの英語ゲームの3種類であった。

授業の感想については、5件法による10問の質問と自由記述欄からなる質問紙を準備し、保育英語の授業後に、回答を求めた（資料2を参照）。

3.3 結果

5件法の質問に関し、「そう思う」を5点、「そう思わない」を1点としてそれぞれ得点化し、平均値および標準偏差を求めた。表9の通り、いずれの質問項目についても3.5以上の高い得点が並んでいる。各コースを独立変数、各質問項目を従属変数として分散分析を行ったが、すべての項目でコース間の差はなかった。

「楽しかった」かについては、全体の平均値が4.7と非常に高い。「わかりやすさ」、「英語に興味を持てる」についても、それぞれ4.5、4.4と非常に高い。また、「理解することができる」、「簡単なコミュニケーションができるようになると思う」という英語効力感を問うような質問に対しても、4.4、4.3とかなり高い値を示している。「適切に答えることができる」「よい成績をとることができる」も英語効力感を問う質問であるが、先の2項目よりは若干値は低くなるものの、4.1、3.9と高めの数値である。

「やってみようという気になる」は4.4とかなり高い数値である。「海外の人と話したくなった」は3.8と10問の質問項目の中で最も低いものの、数値的には高めの値である。

表 9 保育英語授業後アンケート結果

質問項目	全体(N=107)		SW(n=36)		介護(n=26)		子ども(n=45)	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
1. 今回の英語の授業は楽しかった。	4.73	(0.56)	4.64	(0.72)	4.77	(0.43)	4.78	(0.47)
2. 今回の英語の授業はわかりやすかった。	4.55	(0.74)	4.63	(0.65)	4.50	(0.76)	4.51	(0.82)
3. 今回のような授業ならば、英語に興味を持てる。	4.43	(0.88)	4.42	(0.94)	4.44	(0.77)	4.44	(0.92)
4. 今回のような授業ならば、教えられたことを理解することができる。	4.39	(0.87)	4.42	(0.81)	4.31	(0.88)	4.42	(0.92)
5. 今回のような授業ならば、課題に適切にこたえることができる	4.08	(0.99)	4.06	(0.98)	4.08	(0.89)	4.11	(1.07)
6. 今回のような授業ならば、私は良い成績をとることができる	3.87	(1.09)	3.83	(1.11)	3.81	(1.10)	3.93	(1.10)
7. 今回のような授業は、将来役に立つと思う。	4.08	(0.99)	4.17	(0.86)	3.81	(0.94)	4.18	(1.09)
8. 今回のような授業ならば、やってみようという気になる。	4.37	(0.83)	4.19	(1.01)	4.35	(0.80)	4.53	(0.66)
9. 今回のような授業ならば、簡単なコミュニケーションができるようになると思う。	4.27	(0.89)	4.28	(0.81)	4.19	(0.80)	4.31	(1.00)
10. 海外の人と話したくなった。	3.79	(1.12)	4.06	(1.09)	3.88	(0.91)	3.51	(1.20)

3.4 考 察

すべてのコースの学生において、今回の保育英語のワークショップを「楽しい」、「わかりやすい」と回答する割合が高かった。また、「理解することができる」「簡単なコミュニケーションができるようになる」「適切に答えることができる」などの得点も高く、英語効力感が上昇したと考えられる。さらに、「やってみようという気になる」という英語に対する動機づけも高まっている。ただし、「よい成績をとることができる」と「海外の人と話したくなった」については、3 点台にとどまっている。1 回の授業では、大きな変化は起こりにくいと考えられるため、成績への期待や海外の人たちと話したいという希望については限定的な変化となっている。

保育英語ワークショップはかなり楽しかったように見受けられ、多くの学生たちはやや興奮した状態で質問に回答していたことが観察された。そのため得点が好意的に偏っている可能性があるものの、総じて保育英語導入により英語学習への意識変化と学生たちの英語習熟への効果が期待できる。また、コース間の得点に有意差がなかったため、保育英語であっても、ソーシャルワークや介護コースでも実施の有効性が示されたといえる。

4. 総合考察と今後の課題

今回の研究により以下の点が明らかになった。①英語に対し苦手意識をもっているものの英語を使えるようになりたく、英語の必要性を高く認識している学生が多く存在したこと。②英語に対して苦手意識をもっている場合、英語効力感、英語結果期待、内発的動機づけが低く、無動機が高いこと。③保育英語ワークショップによって、基礎的なレベルを楽しみな

から学ぶことで、苦手意識を克服し、英語効力感が上昇する可能性が示唆された。保育英語検定の学習は、幼児たちに話しかけるときのような簡単な日常的なコミュニケーションから学ぶため、英語効力感が得やすいと考える。

この日常的なコミュニケーションに関する英語学習は段階的に難易度があがるため、大学生の知的好奇心を満足させることもできるであろうし、検定試験になっているので、試験合格という目標を設定することもでき、達成感を得ることもできる。さらに合格を重ねることで英語効力感をさらに向上させることができると考える。また、英語効力感が向上することで、他の教科にも般化すると考えられる。しかしこれらの点は、今後の検討課題である。

Bloom の「教育目標の分類学」を改訂した Anderson et. al. (2001) によると、認知プロセスはレベル 1 からレベル 6 に分類される。レベル 1 は記憶する、レベル 2 は理解する、レベル 3 は応用する、レベル 4 は分析する、レベル 5 は評価する、レベル 6 は創造するである。保育英語はコミュニケーションそのものであり、英語を使いながら、記憶、理解、応用を同時に行っていると考えられ、段階的な学びの初期段階でのつまずきに起因する学習の障壁を乗り越えることができる可能性がある。さらに言えば、第 1 章「はじめに」で指摘した、福祉分野で求められる英語運用能力の多くは、被援助者と相互理解を図りつつニーズを把握し、またそれを他者に伝えるというコミュニケーション能力に集約される。したがって、保育英語の学習により、学生たちは実践的な英語運用能力を身につけることができると考えられる。

本学部では、「Fundamentals of English I, II」、「Oral Fluency I, II」、「福祉グローバル研修」が設置されており、2014 年度からは福祉分野におけるコミュニケーション能力を学習するための「Communication for community work」が新設された。これらの科目は基礎的な「Fundamentals of English I」から「留学」や講義がすべて英語で行われる「グローバルカレッジ」科目に至るまで系統的に配置されている。保育英語検定を補助的に導入することによって、より効果的に英語を学ぶことができ、しかも福祉分野に必要な実践的な英語運用能力を習得すると同時に、大学 4 年間途切れずに英語を学習することができると考える。

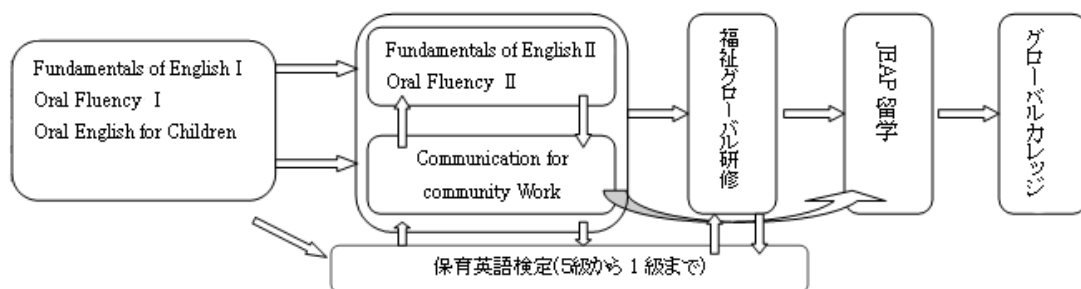


図 8 福祉英語教育システム図

【参考文献】

- Anderson L.W. & Krathwohl D.(2001) *A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives*. Addison Wesley Longman
- ベネッセ教育研究開発センター（2009）「第 1 回中学校英語に関する基本調査報告書（生徒調査）」
http://berd.benesse.jp/up_images/research/data_00_%283%29.pdf（参照 2015 年 3 月 31 日）
- 経済産業省（2011）「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ」
http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/san_gaku_kyodo/sanko1-1.pdf（参照 2015 年 3 月 31 日）
- 小島文恵（2013）「小学校外国語活動が中学校での英語学習に対する自己効力信念に及ぼす影響について」
『小学校英語教育学会学会誌』 **13** : 118-133
- 松沼光泰（2005）「英語自己効力感（ESE）尺度の作成」『日本教育心理学会総会発表論文集』 **47** : 348
- 鈴木克義（2012）「子ども英語から保育英語へ～「保育英語検定」導入の背景と今後の保育者養成」
『常葉学園短期大学紀要』 **43** : 107-114
- 田中博晃・前田啓朗（2004）「外国語学習動機研究における構成概念‘amotivation’：測定の妥当性検証とネガティブな質問項目の影響」『日本言語テスト学会研究紀要』 **6** : 128-139
- 吉田研作（2009）『中学校英語に関する基本調査』から示唆されるもの
http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/pdf/data_02.pdf（参照 2015 年 3 月 31 日）

【謝辞】

今回の研究にあたって、学長所管研究奨励金をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、保育英語のワークショップ実施に関しては、本学部の英語教員である Lara Promnitz-Hayashi 先生に大変お世話になりましたこと、感謝申し上げます。

資料 1

「英語」に関するアンケート

このアンケートは英語に関する意識調査です。正しい答えや間違った答えはありませんので、あなたがいつも感じている通りに答えてください。なお、この結果については、統計的に処理し、皆さん方の英語教育に還元していきたいと考えております。また、この回答が英語等の成績に影響することは一切ありませんので、思ったまま正直にご回答下さい。

英語教育プロジェクトチーム

1 性別： 男 女 年齢： _____ 歳 学年： _____ 年
コース： SW ・ 介護 ・ 子ども

2 海外で生活したことはありますか？ はい ・ いいえ
→ はいの場合、何歳頃： _____ 歳頃，どこ： _____
使用した言語： 英語 ・ 日本語 ・ その他 (_____)

3 海外に行ったことはありますか？ はい ・ いいえ
→ はいの場合、何回くらい？： _____ 回，どこ： _____

4 外国の友人がいますか？ はい ・ いいえ

5 英語を学び始めたのはいつですか？
① 小学 _____ 年生， ② 中学生 ， ③ その他 (_____)
→ 小学校からの方へ
先生にネイティブ（外国人）の人はいましたか？ はい ・ いいえ
授業は楽しかったですか？ はい ・ いいえ
授業でどのようなことをしましたか？ _____

6 中学校の英語の授業についてお尋ねします。
中学の英語の先生にネイティブ（外国人）の人はいましたか？ はい ・ いいえ
授業は楽しかったですか？ はい ・ いいえ
英語はよく理解できていましたか？ はい ・ いいえ
授業でどのようなことをしましたか？ _____

7 あなたの英語に対する考えについてお尋ねします。以下の質問について、自分にどれくらいあてはまるのかを、それぞれ○をつけてお答えください。

	質問	そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえ ない	そう 思わ ない あまり	そう 思わ ない
1	英語が好きである	5	4	3	2	1
2	英語を話せるようになりたい	5	4	3	2	1
3	もっと英語の授業があればいいのと思う	5	4	3	2	1
4	海外研修に参加したい	5	4	3	2	1
5	海外留学をしたい	5	4	3	2	1
6	将来は英語を使った職業に就きたい	5	4	3	2	1
7	将来は海外で働きたい	5	4	3	2	1
8	これから福祉の仕事でも英語が必要になると思う	5	4	3	2	1
9	リスニングが得意である	5	4	3	2	1
10	スピーキングが得意である	5	4	3	2	1
11	ライティングが得意である	5	4	3	2	1
12	リーディングが得意である	5	4	3	2	1
13	大学の英語の授業は楽しい	5	4	3	2	1
14	大学の英語の授業は難しい	5	4	3	2	1
15	私は英語の授業で与えられた課題に適切に答えることができると思う	5	4	3	2	1
16	私は英語で良い成績をとることができると思う	5	4	3	2	1
17	私の英語の学力はすぐれていると思う	5	4	3	2	1
18	私は英語の授業で教えられたことを理解することができると思う	5	4	3	2	1
19	私は英語の学習内容についてたくさんを知っていると思う	5	4	3	2	1
20	私は英語が得意だと思う	5	4	3	2	1
21	私は英語の学習内容を習得できると思う	5	4	3	2	1
22	私は英語の勉強方法を知っていると思う	5	4	3	2	1
23	私が英語を勉強すれば外国の人と話をしたり電子メールでやりとりできると思う	5	4	3	2	1
24	私が英語を勉強すれば、進学や就職のときに役立つと思う	5	4	3	2	1
25	私が英語を勉強すれば、将来仕事をするとき役に立つと思う	5	4	3	2	1
26	私が英語を勉強すれば、海外に行ったとき困らないと思う	5	4	3	2	1
27	私が英語を勉強すれば、英語で本を読んだり映画を見たり歌詞を理解したりできると思う	5	4	3	2	1
28	私が英語を勉強すれば、世界のいろいろなことを知ることができると思う	5	4	3	2	1
29	私が英語を勉強すれば、外国の人と友だちになれると思う	5	4	3	2	1

8 英語を学習する理由についてお尋ねします。以下の質問について、英語を学習する理由として自分にどれくらいあてはまるのかを、それぞれ○をつけてお答えください。

質問		そう 思う	やや そう 思う	どちら とも い え な い	そう あ ま り 思 わ な い	そう 思 わ な い
1	英語学習に対して、自分なりの明確な理由を持っている	5	4	3	2	1
2	英語を学習していると、時間が充実しているように思う	5	4	3	2	1
3	英語はがんばるほど成果が出ると思う	5	4	3	2	1
4	授業で必要だから	5	4	3	2	1
5	将来、いい仕事に就きたい	5	4	3	2	1
6	仕事に就いた後も、給料などでよい待遇を得たい	5	4	3	2	1
7	自分にとっては、優秀な人というのは英語が話せるものだから	5	4	3	2	1
8	英語を話す人と英語で会話ができると、なんとなく格好いい	5	4	3	2	1
9	英語ぐらい知っている方が、まともだと思うから	5	4	3	2	1
10	外国語を少なくとも1つは話せるようになりたい	5	4	3	2	1
11	自分自身の訓練になる	5	4	3	2	1
12	英語を使えるような人になりたい	5	4	3	2	1
13	英語の映画や歌詞、文学などを理解するのが楽しい	5	4	3	2	1
14	英語を勉強して初めて気づくことがあると、満足する	5	4	3	2	1
15	英語圏の人々や、彼らの生活様式について知るのが楽しい	5	4	3	2	1
16	英語ができるようになると、今までとは違う自分の新しい一面を見られる	5	4	3	2	1
17	英語を勉強しつづけていると、今まで聞き取れなかった単語や言葉がわかるようになってくるのが嬉しい	5	4	3	2	1
18	英語の難しい課題ができたときの満足感を得たい	5	4	3	2	1
19	英語が話されているのを聞くと、ワクワクしてくる	5	4	3	2	1
20	英語で会話をしていると、楽しくてドキドキする	5	4	3	2	1
21	本物の英語が話されているのを聞くと、嬉しくなる	5	4	3	2	1

- 9 あなたは英語に対して苦手意識を持っていますか？ はい ・ いいえ
→ はいの場合、いつ頃から苦手意識を持っていますか？ _____
何が苦手ですか？ _____
それは何故ですか？ _____

- 10 大学の英語の授業についてお尋ねします。

難しいと思うところがあれば、それはどのようなところか、またそれは何故なのかを以下に書いて下さい。



楽しいと思うところがあれば、それはどのようなところか、またそれは何故なのかを以下に書いて下さい。



ご協力ありがとうございました。

資料 2

英語授業アンケート

今回の英語の授業について、あなたの感じたこと・気づいたことをお答えください。正しい答えや間違った答えはありませんので、ありのままを答えてください。

英語教育プロジェクトチーム

- 1 性別： 男 女 年齢： _____ 歳 学年： _____ 年
 コース： 社福 ・ 心理 ・ 介護 ・ 子ども

- 2 該当するところに丸印をつけてください。

質 問		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1	今回の英語の授業は楽しかった。	5	4	3	2	1
2	今回の英語の授業はわかりやすかった。	5	4	3	2	1
3	今回のような授業ならば、英語に興味を持てる。	5	4	3	2	1
4	今回のような授業ならば、教えられたことを理解することができる。	5	4	3	2	1
5	今回のような授業ならば、課題に適切にこたえることができる	5	4	3	2	1
6	今回のような授業ならば、私は良い成績をとることができる	5	4	3	2	1
7	今回のような授業は、将来役に立つと思う。	5	4	3	2	1
8	今回のような授業ならば、やってみようという気になる。	5	4	3	2	1
9	今回のような授業ならば、簡単なコミュニケーションができるようになると思う。	5	4	3	2	1
10	海外の人と話したくなった。	5	4	3	2	1

- 3 その他、感じたこと・気づいたことを自由に記述してください。
